

# Windows Server 2022 環境での導入時の注意

Windows Server 2022 (64bit 版 OS) の環境で 64bit 版の E-Post Mail Server (x64) シリーズ・E-Post SMTP Server (x64) シリーズ・E-Post BossCheck Server (x64)・E-Post Secure Handler (x64)を導入するときは、Administrator でのインストール時、サービス起動時の権限 (または利用制限) についての十分な確認が必要です。

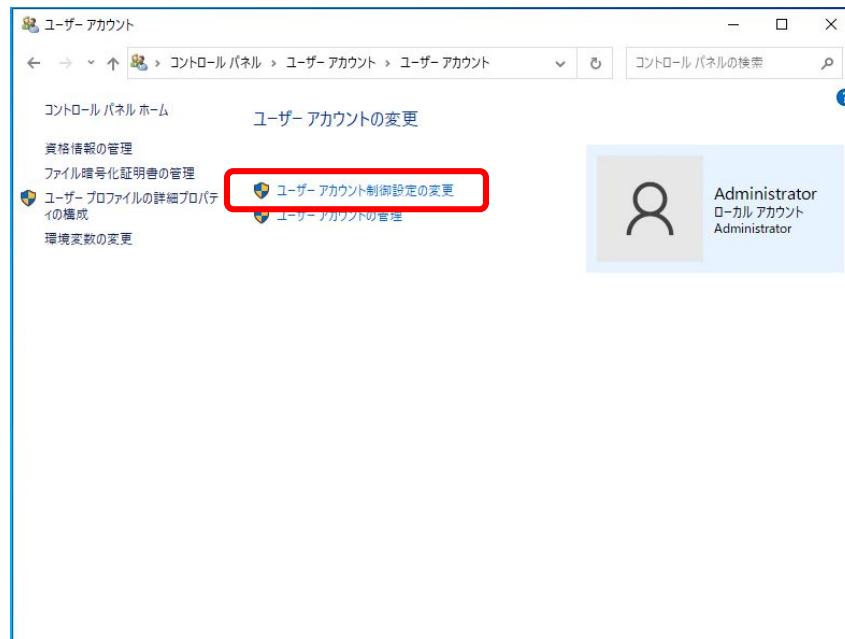
Windows Server 2022 では、Administrator アカウントでインストール・動作しているときでも、User Account Control (UAC) が有効となっているときは、Administrator アカウントでもサービス登録や操作ができませんので、UAC を無効化してから、インストールや、プログラムの操作、サービスプログラムの起動を行う必要があります。

また、Administrator ではない Administrator 権限の別名アカウントでインストールしたり、プログラムの操作やサービスプログラムの起動を行うときは、常に「管理者として実行」を選択して実行する必要があります。

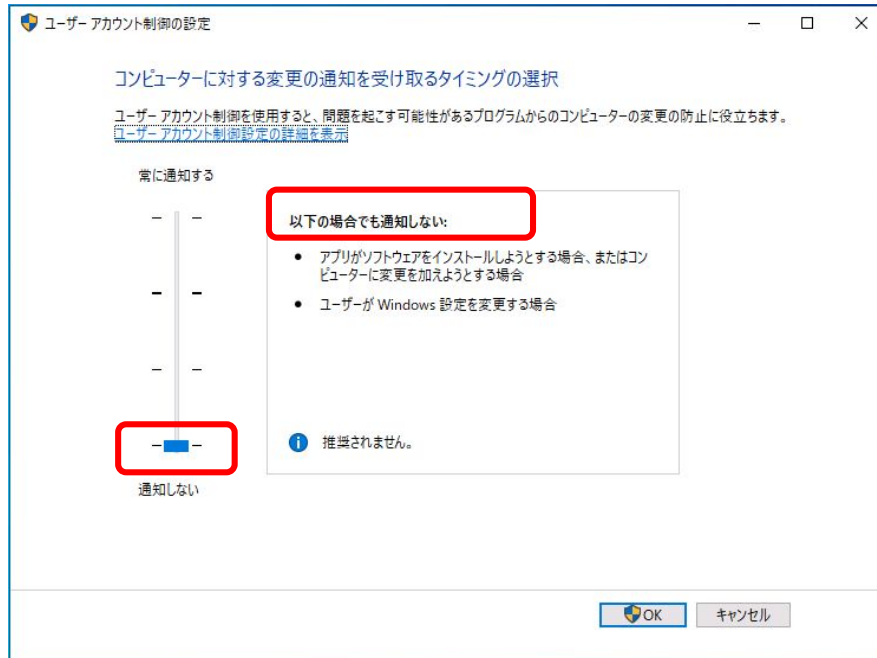
また、Windows ファイアウォールの設定で、E-Post Mail Server (x64) シリーズが使用するポートを設定することも忘れないようにしてください。

## 1. Windows Server 2022 環境に導入するための事前操作 [UAC の無効化]

(1) コントロールパネル → ユーザーアカウント → ユーザーアカウント → ユーザーアカウント制御設定の変更 を開きます。



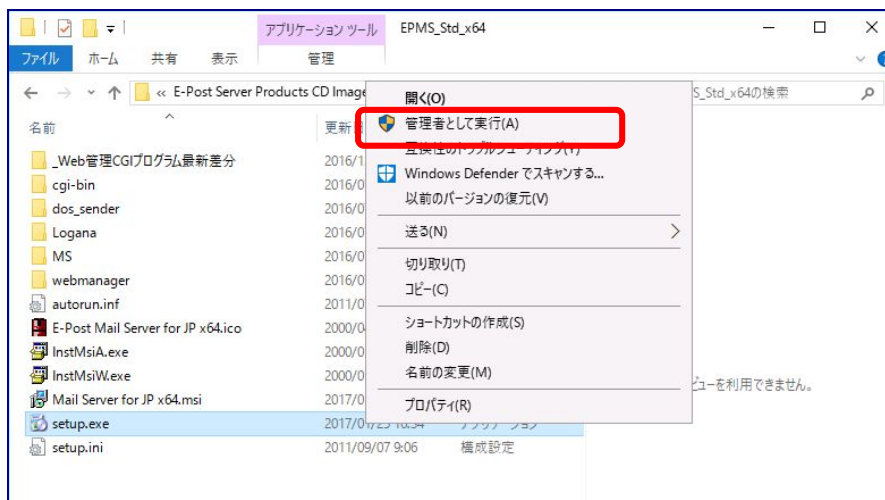
(2) [ユーザーアカウント制御設定の変更] でいちばん下の「以下の場合でも通知しない」にスライダーを下げます。



(3) [OK] ボタンをクリックした後、ウィンドウを閉じ、再起動します。

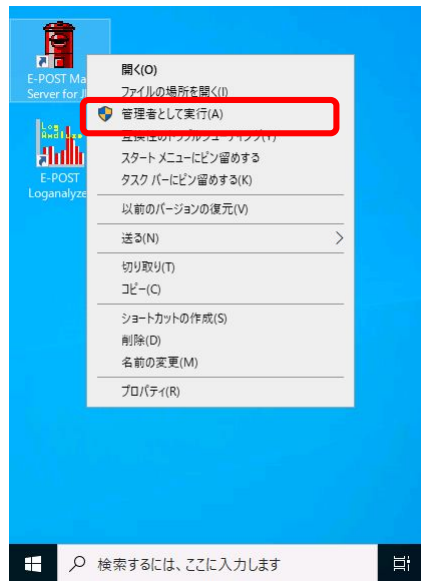
## 2. Administrator 権限の別名アカウントでインストール・実行するとき

(a). Administrator 権限の別名アカウントでインストールする際、.msi ファイルや setup.exe を実行するときに右クリックメニューから、「管理者として実行」を選択して実行します。

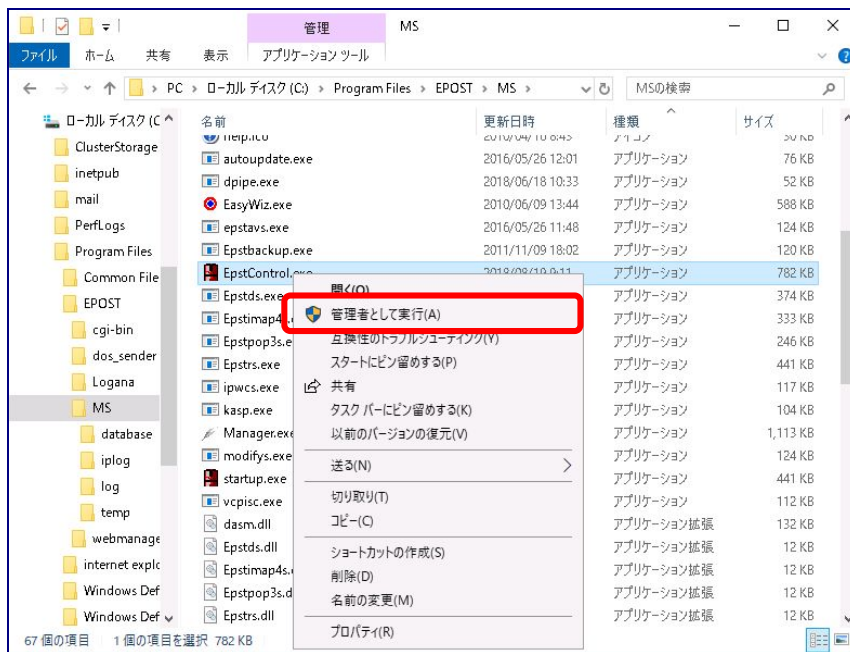


(b). Administrator 権限の別名アカウントでインストールしたときは、Mail Control を開く際、Mail Server アイコンをダブルクリックして実行せず、右クリックメニューから「管理者として

実行」を選択します。



(c). Administrator でインストールし、Administrator 権限の別名アカウントで登録・運用するときに、スタートメニューやデスクトップ上のアイコンが登録されないときには、プログラムインストールフォルダ内の"EpstControl.exe"を選択、右クリックメニューから「管理者として実行」を選択します。

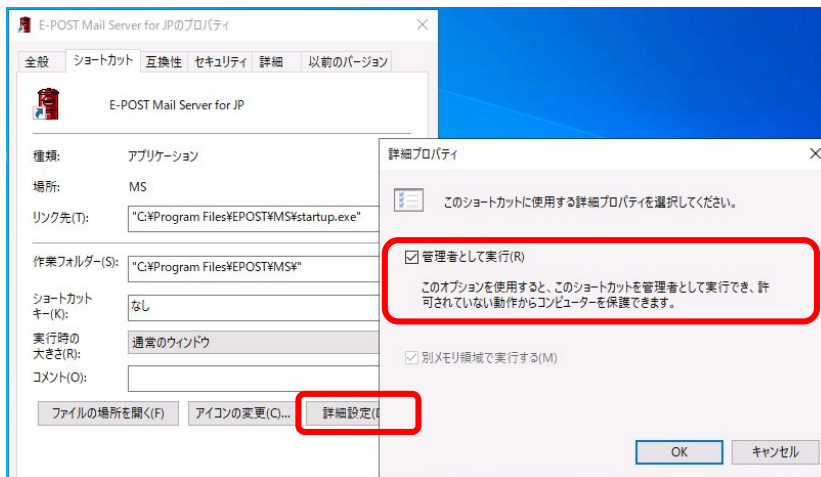


既定のプログラムインストールフォルダは次の通り。

- 64bit 版 E-Post (x64) シリーズを 64bitOS に… ”C:\Program Files\EPOST\MS¥”

(d). 前述の(b)について、ショートカットアイコンのプロパティを常に「管理者として実行」する指定としておくには、次の操作を行います。

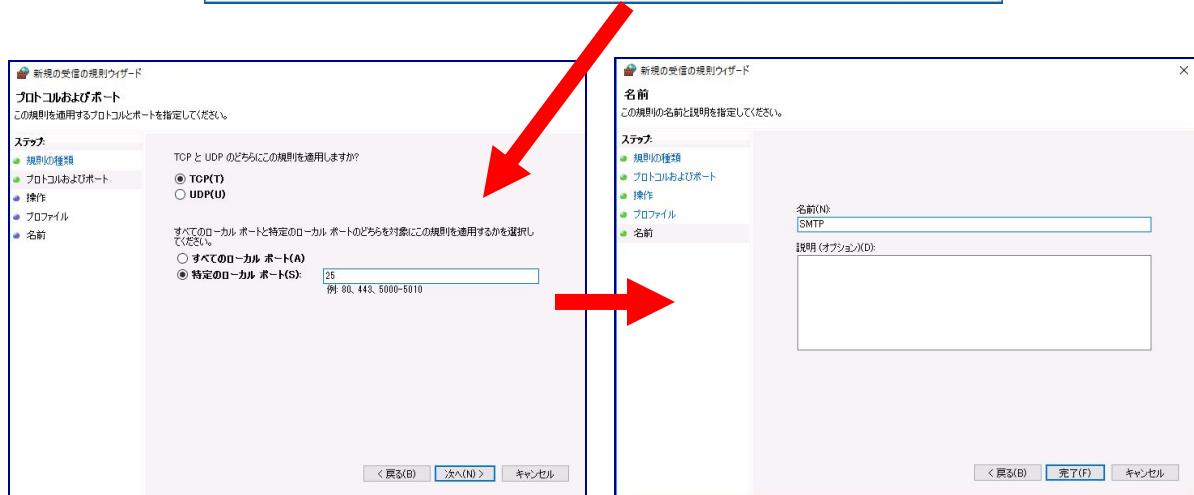
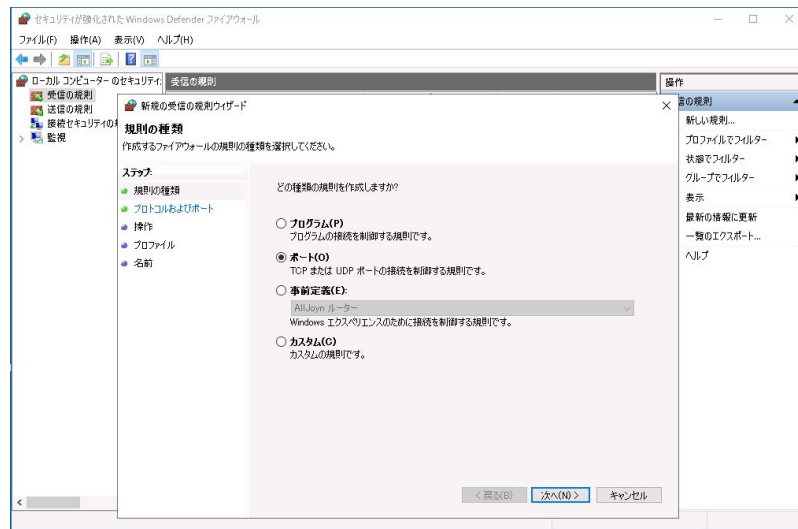
「E-Post Mail Server」アイコンを右クリックし、表示されるメニューから「プロパティ」を選択。  
表示されるダイアログボックスの「ショートカット」タブを選択し、「詳細設定」ボタンをクリック。  
「詳細プロパティ」ダイアログボックスの「管理者として実行」チェックボックスをオンにし、「OK」ボタンをクリック。プロパティのダイアログボックスも「OK」ボタンクリックで閉じる。



### 3. セキュリティが強化された Windows Defender ファイアウォールの設定

セキュリティが強化された Windows Defender ファイアウォールの設定でポートの使用許可を設定します。Administrator アカウントでログインし、セキュリティが強化された Windows ファイアウォールの設定を開きます。

[操作] - [新しい規則] を選択し、必要に応じて、SMTP (ポート番号 : 25) ・ Submission (同 : 587) ・ POP3 (同 : 110) ・ IMAP4 (同 : 143) 各プロトコルが利用するローカルポートのポート番号について、受信・送信ともに通信許可をそれぞれ追加します。



#### ポート番号 (プロトコル一般名称)

- 25 (SMTP)
- 587 (Submission)
- 110 (POP3)
- 143 (IMAP4)
- 465 (SMTP over SSL/TLS) ※SSL/TLS 使用時のみ
- 995 (POP3 over SSL/TLS) ※SSL/TLS 使用時のみ
- 993 (IMAP4 over SSL/TLS) ※SSL/TLS 使用時のみ

さらに念のため、次のサービスプログラムおよび管理ツール類にも、通信許可を与えてください。

- Epstrs.exe (SMTP 受信サービスプログラム)
- Epstds.exe (SMTP 配送サービスプログラム)
- Epstpop3s.exe (POP3 サービスプログラム) ※SMTP Server には非搭載
- Epstimap4.exe (IMAP4 サービスプログラム) ※SMTP Server には非搭載
- modifys.exe (ウイルスパターン更新サービスプログラム) ※Enterprise II 版のみ
- ipwcs.exe (IP 監視サービスプログラム) ※E-Post クラスタ構成時のみ
- EpstControl.exe (管理ツール : E-Post Mail Control)
- Manager.exe (管理ツール : E-Post Account Manager)
- loganalyzer.exe (付属ツール : E-Post LogAnalyzer)

#### 4. セキュリティが強化された Windows Defender ファイアウォールの設定 (E-Post クラスタ構成時)

また、セキュリティが強化された Windows Defender ファイアウォールでは、ICMP プロトコルが無効にされており、ping に応答しない設定になっています。E-Post クラスタ構成時には、付属の IPWacher (IP 監視サービスプログラム) を機能させるために、「ファイルとプリンターの共有 (エコー要求-ICMPv4 受信)」を有効にする必要があります。

ちなみに、シングル構成の場合は、付属の IPWacher を使いませんので、特に関係ありません。

「ICMPv6 受信」については、IPWacher は IPv4 のみの対応で IPv6 に非対応ですので、特に変更する必要はありません。

